

AO入試

指定校制
推薦入試

公募制
推薦入試

自己推薦入試

一般入試

センター利用入試

社会人入試

外国人
留学生入試

編入学試験

出願手続

受験上の注意

合格発表
入学手続
入学辞退

学費

奨学金制度

Q&A

平成29年度
入試問題

大学
公募制推薦入試
小論文

大学
公募制推薦入試
教養（国語）

大学
公募制推薦入試
教養（英語）

大学
自己推薦入試
小論文

大学
一般入試
（国語）

大学
一般入試
（英語）

大学
一般入試
（数学）

短大
公募制推薦入試
小論文

短大
公募制推薦入試
教養（国語）

短大
一般入試
（国語）

記入上の注意

記入例

教育福祉学部 公募制推薦入試「小論文」①

びわこ学院大学

平成二十九年 推薦入学試験「小論文問題」

次の文章を読み、あなたの考えたことを六〇〇字程度で述べなさい。

自分のこれから考えることとはたくさんあります。あるいは、自分の周りの優秀な人間と自分を比べると自信を失うこともあります。世の中にはできる人間はたくさんいるし、「生かぬわな」と思っている人にも出会います。この分野が自分に向いていないのではないかと悩むこともあるでしょう。

そんなときこそ、1年前や3年前、6年前の自分と比較してみるのです。過去の自分と現在の自分を比較したら、必ず自分は成長しているはずですよ。

よく「自分探しの旅」といって、世界を放浪する人がいますが、なにも世界を旅しなくても自分探しはできます。ちょっとタイムマシンにのった気持ちで3年前の自分に戻ってみると、何が変わったかは一目瞭然です。

そしてその変化を振り返りながら、どの分野がもっとも成長しているかを考えてみましょう。もっとも大きく成長した分野が、自分の得意な分野だとわかります。とくに、その分野に関して自分があまり苦勞せずに成長しているのだとしたら、そこはあなたの強みになる可能性が高いでしょう。

結局、人の成長は、その分野に費やした時間、練習した量が成果として積み重ねられたものです。きついなと思うながらもやっただけ練習は、それほど長い時間頑張らないはずですよ。

でも、楽しみながらやっていると、自然と練習量が増えます。ですから、苦勞せずに成長できた分野は、これからも楽しみながら学んでいける、あなたに向いている分野と言えます。

野球のイチロー選手は、子どものころ毎日バッティングセンターに通っていたと言われていますが、嫌いだったら続けられなかったでしょう。テニスの錦織選手も同様です。あれだけの練習をするから時速200キロのサーブが打てるようになったのです。もしイヤイヤ練習をしていたら、それだけの技術を身につける前に潰れていたはずですよ。

イチロー選手や錦織選手のように、誰もが自分の好きなものがあるはずですよ。そして、その好きなものを選び取って、磨きをかけていく力がこそが、先ほど話をした自分へのリーダーシップの発揮のしかたですよ。

好きなものに対する積み上げは、人をその分野の専門家や第一人者に導いてくれます。自省は、将来の展開の方向性を知るための、指標を見つけること。自分が何に向いているのかは、過去と現在を比較して、自省してみればおのずとわかります。

未来の自分に不安を持つのではなく、人と比べて落ち込むのではなく、過去の自分と現在の自分を比べて、その成長分野を目指しましょう。

あなたに向いている道は、あなた自身のなかに、既に答えがあるのです。

（柳沢幸雄『18歳の君へ贈る言葉』講談社）

教育福祉学部 公募制推薦入試「小論文」②

びわこ学院大学

平成二十九年 推薦入学試験「小論文問題」

次の文章を読み、あなたの考えたことを六〇〇字程度で述べなさい。

「運を立って、立てば歩めの親心」という言葉がありますが、こういってことが社会全体に蔓延して、いつまで経っても限りなく「これではよし」とされないのです。今の子どもたちは、そういう状況に追い込まれているのではないかと思います。親や教師は、勉強を頑張らなくて、少しでも上位を目指そうに叱咤激励します。勉強が順調に進めば、成績は向上して社会的自尊感情はより高くなります。しかし、この感情には限界がありません。終わりがなく競い続け、勝ち続けなければならないレースは、子どもたちを疲れ果てさせます。それでも、勝ち続けられる少数の子どもはまだ救われますが、中途のいずれかの段階で大多数の子どもたちは敗者とならざるを得ません。その時、社会的自尊感情はつぶれることになりませんが、それでも自分を支える自尊感情はあるでしょう。

人は社会の中で、自らの評価を求めて生きる欲求を持っています。そういう意味で、向上するために、挑戦するためには、社会的自尊感情は欠かせない大切な感情だといえます。

しかし、人が生きる上では、さらに大切な感情の領域があります。自尊感情の二つ目の領域は「基本的自尊感情 (basic self-esteem)」と呼ばれるものです。

この自尊感情は、成功や優越とは無関係に自分の良いところもあるがままに受け入れ、自分を大切な存在として尊重するものです。他者との比較に基づくものではなく、絶対的で無条件の感情であり、根源的で永続性があります。

満足感ややすらぎ、安心、あるいは納得のいくあきらめといった種類の感情で、「生まれてよかった」「このままでいい」「これ以上でも以下でもない」「自分は自分」と無理なく自然に思える感情のことです。

私は、基本的自尊感情こそ、人間の自尊感情の基礎を支える重要な役割を果たす領域だと考えています。ふくらんだりほんだり、つぶれてしまったりする社会的自尊感情を、下でしっかりと支えてくれるのが基本的自尊感情です。これは、人生の中で何度も経験するはずの挫折や困難を乗り越える原動力になるといえます。

不確かで不安定な社会的自尊感情と違って、基本的自尊感情は、少しずつゆつくりと、薄紙を重ねていくようにして形成されます。身近で信頼する人と体験を共有し、同時に感情を共有することによって、自分はこれだけののだと、わかっていくのです。

そうやって形成された感情は、他者との比較で成り立つ相対的なものではなく、絶対的で無条件に自分を受け入れられる感情となります。形成されて、しっかりと固まると、容易なことでは揺るぎません。

現代社会では、家族が崩壊の危機に瀕し、地域社会の関係も希薄となり、日常生活の中で基本的自尊感情を育む要素が極限まで減少してしまいました。

（中略）

逆に、誰もが社会的自尊感情を育むことには熱心です。社会全体が熱く浮かされたように、巨大なピラミッドの少しでも上を目指すことを期待し、奨励しています。子どもたちは、頑張り努力し成功し続け、息つく間もなくピラミッドを登っていき

ます。

肥大化する社会的自尊感情に対して、基本的自尊感情が乏しくなっていることで、生きる力のバランスが崩れてしまっているのです。

（近藤卓『乳幼児期から育む自尊感情「生きる力、乗りこえる力」』エイデル研究所）

AO入試

指定校制
推薦入試

公募制
推薦入試

自己推薦入試

一般入試

センター利用入試

社会人入試

外国人
留学生入試

編入学試験

出願手続

受験上の注意

合格発表
入学手続
入学辞退

学費

奨学金制度

Q&A

平成29年度
入試問題

大学
公募制推薦入試
小論文

大学
公募制推薦入試
教養 (国語)

大学
公募制推薦入試
教養 (英語)

大学
自己推薦入試
小論文

大学
一般入試
(国語)

大学
一般入試
(英語)

大学
一般入試
(数学)

短大
公募制推薦入試
小論文

短大
公募制推薦入試
教養 (国語)

短大
一般入試
(国語)

記入上の注意

記入例

教育福祉学部 公募制推薦入試「教養問題 国語」①-①

びわこ学院大学

平成二十九年 推薦入学試験「教養問題」(国語)

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

「学が」ということを考えるとき、どうしても、「教える」ということについてもまた考えないわけにはいかない。少なくとも学校では、教えられるから学ぶのだといえるかもしれない。世の中が教師という職業が存在し、学校という特別の施設と制度が存在する以上、教えることをめざして学ぶことを考えることはできない。

ところで、教えることを専門に行っている教育の世界では、(a)子どもが自ら学ぶことへの信頼と、にもかかわらず教えることへの必要性との間の(b)「ディレンマ」がある。つまり、子どもはもともと自分で学び、自分で探求して、自分で世界を認識していく「力」があるのだという言明(それなら何も教える必要はないじゃないか、ということになってしまいそうな話)と、子どもを適切に導き、指導して、教えることがいかに重要であり、決定的であるかを指摘すること(そうでないと、子どもはいつでもダメになる傾向があるという話)との、互いに矛盾してしまふようなことを、なんとかしてうまくバランスをとってやっつけていかねばならないのである。

たとえば、多くの教師たちに親しまれている斎藤喜博^{ホトケ}氏(注1)のことは引用してみよう。
人間は誰でも、無限の可能性を持っているものでもあり、自分をより豊かに成長させ拡大し変革していきたいという願いを持っているものである。また、誰でもそういう力を持っているものである。
(斎藤喜博『教育学のすすめ』筑摩書房 一九六九年 五ページ)

「無限の可能性がある」というのは、人間(とくに子ども)のもつ(一)「センザイ」的可能性があらかじめ限定してはならないという、おそらく斎藤氏の教師としての信条を述べたものであつて、(二)「学」義とおりに受けとめるわけにはいかないだろう。

ところで、斎藤氏によると、すべての人(とくに子ども)には「自分をより豊かに成長させ拡大し変革していきたい」という願い、力がある」とされる。これは、いわば、子どもの「自ら学ぶ」能力への全面的信頼といえよう。しかし、もしも本当にそうならば、べつたん教育など必要になるのではないか、それに対して斎藤氏は次のように言つた。

大人が仕事によって自分の可能性を引き出し拡大するとすれば、学校にいる子どもたちは何によって自分の持っている可能性を引き出し拡大していくのであろうか。それは学習によってである。子どもの仕事は学習であるから、学習によって子どもの持っている(c)可能性を引き出し拡大していかなければならないのである。
(同書 二二二ページ)

つまり、人が「自分のもっている(無限の)可能性」を引き出すのは、大人にとっては「仕事」であり、子どもにとっては「学習」であるというのである。要するに、大人や子どもが自分で仕事や学習をしていけば、「自分のもつ(無限の)可能性を引き出ししていく」ということであり、やはりすべての人(子どもを含む)の「自ら学ぶ」ことへの全面的な信頼が表明されている、と受けとめていいだろう。

ところで、ここでいささか気になるのは、最後にある「……していかなければならないのである」という表現である。話のつながり而言えば、これは、子どもの仕事は学習であるから、学習によって子どもは自分の持っている可能性を引き出し拡大

教育福祉学部 公募制推薦入試「教養問題 国語」①-②

していくだろう」となるはずである。そもそもこの文で、「子どもの持っている可能性を引き出し、拡大して」いくのは誰なのか。この文の主語が不明確である(この文を英語に(2)「ホヤク」しようとするとき、どうしても「何」とか「何者」かを登場させないわけにはいかない)。ここであえて「いかなければならないのである」というような、忠告/勧告の意味あいを入れたのはなぜだろうか(すでに、子どもは学習すればそうなるのだと断言しているのに)。

おそらく斎藤氏は、教師こそが、子どもの持っている可能性を引き出し、拡大して、いく主体だ、と言いたかったのではないかしら。しかし、文章の成りゆきでは、学習の主体はあくまで「子ども」であるため、急にここで教師が登場する必然性がない。そこで、結果的に、子ども自身が自らを切り開いていくことを指摘しながら、最後に教師の介入の必要性をにおわせておきたかったのではないかしら。

斎藤氏はおそらく、子どもの学びへの信頼と、教師の教える重要さの両方を一倍(3)「ツウカシ」しており、本質的なディレンマをよく自覚していたのではないかと推察される。その上で、矛盾としてではなく教師の実践の場、授業における緊張関係として、両者を統合しようとするのではないかと推察される。実際に、斎藤氏の実践ではそれはどのように達成されていたのであろう。しかし、実際に(4)「氏」の授業を見た人以外の者には「この問題は、こういう独特の表現(レトリック)で解消されるわけではない。また、氏が祈りに触れて強調する「子どもはとくくみあう」授業、「真剣勝負をいどむ」授業、「緊張関係を削り出す」授業というような、うまくいった場合の授業の様子をさまざま(7)「比喩」で言い換えられても、一般読者は、「いつの日か自分もそういう授業をしてみたい」とあこがれることはあつても、日々の自分の授業をどう進めるかについての具体的な示唆をそこから引き出すことはほとんど不可能である。(8)「天才」というものは、自分にとつて当たりまえにやっつけていること(他人にとつてはまさに非凡なこと)を他人に説明することにはほとんど成功しないものである。

そこで天才でない多くの教師は、教育の世界に満ちたさまざまな(9)「まな言説」の中で悩み、苦しんでいる。子どもの学びを大事にする立場からは、「子どもの自主性を育てる」とか、「自ら学ぶ力を育てる」とか、「子どもが生きていく授業づくり」とか、教育界特有のレトリックが(10)「氾濫」する。また、授業においては、教師の「(11)「出」(指示や介入)」が問題にされ、「教えちゃった」ことが批判的になる。あくまで子どもに考えさせ、発見させるのが、い指導だとされる。

教師がすばらしい授業をすれば、「子どもの動きがすこい」「表情が生きている」「子どもの進求力に圧倒される」「あの子どもの発言は驚嘆に(12)「値する」という形で、賞賛はすべて子どもたちに向けられるのだが、授業が失敗すると、「教師の疑問(教師のなげかけの問い)が未熟だ」「教材研究が甘い」「子どものもつ能力の半分も引き出していない」「教師の介入しすぎだ」「ああいう指導は子どもをだめにする」という形で、(13)「ヒナン」はすべて教師に向けられるのである。

要するに「教師が何もしないのに、子どもたちがどんどん追求し、学びを深めていく」ようにしなければならぬ。教師に要求されることは、「教えないで、教える」ことであり、「子どもが自立的・主体的に動くように、動かす」という、まさに手品のようなわざを身につけることになるのである。

そこで、どうやれば、こういう「何もしない(けれど子どもが理想的に活動してくれる)教師になれるのか、という、まさに稀問答の答えを求めような「修業」にはげむことになる。

(佐伯胖『学が』というこの意味』岩波書店)

注1 斎藤喜博 群馬県出身の日本の教育者(一九二一年〜一九八一年)。小中学校の教師として職後の民主主義教育の実践を展開した。その教育実践は多くの教師に影響を与え、著書も多い。また、アララギ派の歌人でもあり、晩年は宮城教青大で大学教授を務めた。

教育福祉学部 公募制推薦入試「教養問題 国語」①一(3)

募集定員
入試スケジュール

AO入試

指定校制
推薦入試

公募制
推薦入試

自己推薦入試

一般入試

センター利用入試

社会人入試

外国人
留学生入試

編入学試験

出願手続

受験上の注意

合格発表
入学手続
入学辞退

学費

奨学金制度

Q&A

平成29年度
入試問題

大学
公募制推薦入試
小論文

大学
公募制推薦入試
教養(国語)

大学
公募制推薦入試
教養(英語)

大学
自己推薦入試
小論文

大学
一般入試
(国語)

大学
一般入試
(英語)

大学
一般入試
(数学)

短大
公募制推薦入試
小論文

短大
公募制推薦入試
教養(国語)

短大
一般入試
(国語)

記入上の注意

記入例

問一 傍線部(1)から(4)についてカタカナを漢字にしないさい。

- (1) センザイ (2) ホンヤク (3) ツウカン (4) ヒナン

問二 傍線部(ア)から(エ)について漢字をひらがなで書きなさい。

- (ア) 字義 (イ) 比喩 (ウ) 冗濫 (エ) 値(する)

問三 傍線部(ア)「子どもが自ら学ぶことへの信頼」ともかわからず教えることの必要性との間」とは何と何の間のことですか、次の①から④のなかから適当な番号で答えなさい。

- ① 子どもは教えられる対象であるということ、教師は職業の立場として教える側に立つこと
- ② 子どもが自分の可能性を引き出して学ぶときの、子どもと教師の間の信頼関係
- ③ 子どもが自分で学ぶ力があるということ、教師が教えることの重要性
- ④ 子どもの学びたいという気持ちと、教師が教えたいという気持ち

問四 傍線部(1)の「ディレンマ」は文中で使われている①から④の語句のどれと意味的に近いですが、番号で答えなさい。

- ① 緊張関係 ② 統合 ③ 不明確 ④ 矛盾

問五 傍線部(1)「可能性を引き出し拡大していかなければならないのである」の主旨は何ですか、次の①から④のなかから適当な番号で答えなさい。

- ① 子ども ② 教師 ③ 子どもと教師 ④ あなたと彼ら

問六 傍線部(1)に関して、次の二つの問いに答えなさい。

- (1) 傍線部のなかにある「独特の表現」とはどのような表現ですか、文中にある言葉を使って例示しなさい。
- (2) 傍線部(1)が意味していることはどのようなことですか、「独特の表現」がもつ特徴を明らかにしながら、できるだけわかりやすく説明しなさい。

問七 傍線部(1)で述べている「天才」を斎藤氏ととらえた場合、筆者は斎藤氏をどのようにとらえていますか、二〇〇字以内で書きなさい。

教育福祉学部 公募制推薦入試「教養問題 国語」②一(1)

びわこ学院大学

平成二十九年 推薦入学試験「教養問題」(国語)

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

近代以降、こうした時代を迎えている今日まで、教育には文明としての課題と文化としての課題が与えられています。

文明という面から見れば、教育は国家の統治行為です。これは人類社会を統合するための政治行為であり、法や制度や技術の基盤をつくる営みです。じつさいわれわれが共通の知識、あるいは共通のものの見方を持つていなければ社会は成立しません。社会には対立がつきものですが、その対立でさえ共通の地平の上で起こさせるのが、文明社会というものです。現代における人類社会は、具体的には国家というかたちを取っているわけですから、教育は国家単位の統治行為として進められなければならないわけでしょう。

早い話、日本人がお互いに日本語という共通語を持たなければ、日々の生活すら成り立たないでしょう。あるいは、最低限度の算術を知らなければ、私たちは買い物もできないし、小売商を営むこともできません。

また、社会の基本的な約束事を教え、最低限度の規範意識を授けるのもまた教育の役割です。ものを盗んではならない、人を殺してはならない。道徳教育の問題はつぎの章で改めて論じますが、こうした規範意識を国民が知り、その知識を身につけていなければ、社会生活は①痼疾(こびょう)してしまうでしょう。

国家の規範とは法と制度であって、理性的であるという意味で「i」に属します。これにたいして、身についた規範とは「ii」に属するものであって、少し古い言葉を使えば「解風(じょうふう)美俗」と呼ばれる類のものです。とくに後者は私たちがほとんど第二の本能になるまで身につけなければ、社会は(1)エンカツに機能しません。

(A)、この質の異なる二つの規範のレベルは、文明と文化の根本的な関係を反映して、互いになだらかにつながってはいません。わかりやすくいえば、盗みがいけないことは法的にも定められ、私たちはそれを知的に理解していると同時に、人が盗みを働いているのを見れば不快になるという、ほとんど感覚的な苦痛を味わうわけです。

教育はこの両面に関わっていかなければならず、そこに根源的な難しさをつねに抱えているのだといえるでしょう。

教育が国家の統治行為であるということは、裏返して見れば、近代以降の国民は無知である自由、あるいは無知である権利を持つてはいないことを意味します。注意すべきは、知識とは私たちにとって便利な道具であるだけでなく、文明社会においては持つておくことを義務づけられたものなのです。

(1) 道具としての知識のなかで、持つておくことを義務づけられた典型的なものが言葉でしょう。

じつは言葉とは、個人が自分自身のために意思や感情を伝える道具としてあるものではありません。むしろ、言葉は伝える相手のために、第三者を含む社会のためにあるものです。もし言葉がたんに意思や感情を伝えるものならば、私たちは言葉に頼るより、実力行為に頼った方がはるかに(2)「コウリツ的」でしょう。相手に腹を立てたら殴ればいいし、相手を愛していればただ抱きつければいい。それだけで本人は満足できますが、しかし、こうした行為を私たちは文明的だとは考えていないはず。

相手への怒りの言葉も、恋人への愛のささやきも、そうした実力行使のいわば代用として用いられます。相手に身体的な迷惑をかけることなく、意思と感情だけを抽象して伝えるのが、言葉です。つまり、言葉

AO入試

指定校制
推薦入試

公募制
推薦入試

自己推薦入試

一般入試

センター利用入試

社会人入試

外国人
留学生入試

編入学試験

出願手続

受験上の注意

合格発表
入学手続
入学辞退

学費

奨学金制度

Q&A

平成29年度
入試問題

大学
公募制推薦入試
小論文

大学
公募制推薦入試
教養 (国語)

大学
公募制推薦入試
教養 (英語)

大学
自己推薦入試
小論文

大学
一般入試
(国語)

大学
一般入試
(英語)

大学
一般入試
(数学)

短大
公募制推薦入試
小論文

短大
公募制推薦入試
教養 (国語)

短大
一般入試
(国語)

記入上の注意

記入例

教育福祉学部 公募制推薦入試「教養問題 国語」②-②

とは自分のためよりも、相手のために存在しているものであり、同時に傍らに居る第三者、ひいては社会全体の理解のために存在するものなのです。

こうした意味で、社会の共有財産である言葉をはじめとするさまざまな知識とは、じつはもともと社会のためのものであって、個人のためのではないと見ることが出来ます。「1+1=2」であれ、万有引力の法則や日本語の文法であれ、知識の歴史的な集積としての文明がまず先にあり、個人はそのなかに生まれ落ちてくるのですから、それに従い、それを分有するのは、人間の権利である以上に義務なのです。そうであるがゆえに、近代国家はそうした「iii」の代理人として、行政の末端に学校という制度を置くことができるのだともいえます。

教員の国家免許制、検定教科書の無料配付、公立学校の無償制、私立学校への国庫補助等々の施策は、国家そのものの存続のためにおこなわれると同時に、文明から権利を授けられた者である国家の義務だとも見ることが出来ます。

《中略》

教育とは国家の統治行為であると述べましたが、現代の国家は国民をたんに統治するだけではありません。とくに第二次世界大戦後においては、国家は福祉の主体としても捉えられ、国民にサービスをおこなうことが共通の認識として確立されてきました。この場合のサービスとは、国民が一人の地球市民として、独立した個人として自己を表現していく営みを助けるという意味です。【a】

統治に対するサービス。これは本質的には正反対の営みですが、現代の教育はサービスによって、個人の個性化と社会の多様化に応じなければ成り立ちません。【b】

もともと問題点を先に述べれば、教育制度の(3)「コンカン」は統治にあるにもかかわらず、社会からはサービスが過剰に求められ、国家もまた過剰に私生活に介入したがるのは、今日の大きな病弊だともいえます。この点について、以下もう少し詳しく考察していきましょう。

多様化にはさまざまな側面が含まれています。一人一人がしかるべき職業訓練を積んで、自己の実人生を切り開いていくというのも一つです。また、アリストテレスが述べたように、教育それ自体のための教育、いいかえれば、個人が知識あるいは美意識を豊かに充実させていく教育も、おのずから多様化に向かうでしょう。【c】

そのさい理論的にいえば、個人の利益、とりわけ個人の理想を追求する営みに国家は関与しなくてもよいという考え方も成り立ちます。

(II) サービスとしての教育は思い切って民営化し、学習塾とか、職人の徒弟制度とか、スポーツや芸術の専門学校とか、場合によって宗教団体に③委ねてもさしつかえない。社会そのものの教育機能を回復し、再活性化するという考え方は、当然ながら、そこでは就学年齢や教科の段階といったものは統一する必要がなく、個人が自由に選択できる。そうした施設が社会に散在していればそれでいいということになります。【d】

(B) 現代国家は、かつての近代国家よりもさらに広く世界文明に向かって開かれていて、人びとの自己の実現を助けることを通じて、間接的には世界そのものに寄与するという責任を負っています。もし日本から偉大な科学者や芸術家が(4)「ハイシユ」すれば、国家の枠を超えて人類に寄与することになり、国家は国際的に④面目をほどこすことになるでしょう。その意味で(III)「国家の教育から、サービスとしての教育を簡単に切り捨てるわけにはいかないのです」。

また、現代社会の移行過程、文明の移行過程にあつて、サービスとしての教育が回り回って国家に利益を還元する側面があることも明らかです。

(山崎正和『文明としての教育』新潮社)

教育福祉学部 公募制推薦入試「教養問題 国語」②-③

問一 傍線部(1)〜(4)のカタカナを漢字に直しなさい。

(1) エンカツ (2) コウリツ (3) コンカン (4) ハイシユツ

問二 傍線部①〜④の漢字の読みをひらがなで書きなさい。

① 破綻 ② 病弊 ③ 委(ねる) ④ 面目

問三 空欄(i)〜(iii)に「文明」「文化」のどちらかをそれぞれ入れなさい。

問四 空欄(A)〜(B)に入れるふさわしい語を次からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

(A) 1 しかし 2 もちろん 3 すなわち 4 それゆえ

(B) 1 しかし 2 したがって 3 ようするに 4 さらに

問五 傍線部I「道具としての知識のなかで、持つことを義務づけられた典型的なものが言葉でしょう」とあるが、筆者は「言葉」をどのようなもの(として存在している)ととらえているか、文中の表現で二点あげなさい。

問六 次の一文は本文中の「a」〜「d」のどこの箇所に入るか、記号で答えなさい。

たしかに市場原理主義の理屈では、そういうえなくもありません。

問七 傍線部II「サービスとしての教育」とはどのような意味か。文中から四十字以内で抜き出し、解答欄にあうように最初と最後の五字を書きなさい。

問八 傍線部III「国家の教育から、サービスとしての教育を簡単に切り捨てるわけにはいかないのです」とあるが、それはなぜか。文中の言葉を用いて、七十文字程度で説明しなさい。

びわこ学院大学

平成29年度 推薦入学試験「教養問題」(英語)

- I. 次の文中の () 内から適切な語(句)を選び、解答欄にその語句を正確に記述しなさい。
- Tomoko and I (are / was / is / were) in the car now.
 - Everyone (go / goes / is going / will go) to the park tomorrow.
 - My father stopped (smoke / smoked / smoking / to smoke /) last month.
 - We arrived (in / on / at / to) the station.
 - They can get there (at / in / of / from) time.
- II. 次の (1) ~ (5) の上下の文の意味がほぼ同じ内容を表すように、() にあてはまる適切な語を解答欄に正確に記述しなさい。
- He is a member of the basketball club.
He () to the basketball club.
 - Finally, Mariko met her mother.
Mariko met her mother at ().
 - I'm sure that he is my teacher's husband.
He () be my teacher's husband.
 - While he was staying in Japan, he visited Hiroshima.
() his stay in Japan, he visited Hiroshima.
 - She is a very famous singer in this country.
She is a singer () to many people in this country.
- III. () 内の語を各日本語の意味をあらわすように並べ替えなさい。
解答欄には、並べ替えた語の2番目と4番目にくくる語を順に記述しなさい。
- 机の上にくっつくかみごもりがある。
(some / there / apples / are) on the desk.
 - 日本のどちらのご出身ですか?
(you / Japan / what / of / part / are / from)?
 - 私はスポーツに興味があります。
(am / sport / in / interested / I).
 - 今、何時ですか?
(you / the / do / have / time)?
 - 自分の車を持っている十代はほとんどいない。
There are (have / teenagers / few / own / their / cars).
- IV. 次の (1) ~ (5) の英文が表す英単語を解答欄に記述しなさい。
ただし、英単語は【】内の与えられた文字から書き始めること。
- A child of your aunt or uncle. [c]
 - A natural ability to do something well. [t]
 - A level of quality, especially one that people think is acceptable. [s]
 - The sound or sounds produced through the mouth by a person speaking or singing. [v]
 - A sports event in which people or teams compete against each other. [m]

募集定員
入試スケジュール

AO入試

指定校制
推薦入試

公募制
推薦入試

自己推薦入試

一般入試

センター利用入試

社会人入試

外国人
留学生入試

編入学試験

出願手続

受験上の注意

合格発表
入学手続
入学辞退

学費

奨学金制度

びわこ学院大学

平成29年度 推薦入学試験「教養問題」(英語)

- I. 次の文中の () 内から適切な語(句)を選び、解答欄にその語句を正確に記述しなさい。
- Mike (is / were / are / was) in Tokyo yesterday.
 - We (will study / studies / studied / study) last night together.
 - My wife's car is (big / more big / bigger / biggest) than mine.
 - I am not (know / sure / understand / true) whether it will rain or not.
 - He found the gold (at / on / in / of) the 19th century.
- II. 次の (1) ~ (5) の上下の文の意味がほぼ同じ内容を表すように、() にあてはまる適切な語を解答欄に正確に記述しなさい。
- It rained a lot last week.
We () much rain last week.
 - Taro drives carefully, so he has never had an accident.
Taro has never had an accident () of his careful driving.
 - She's not going to miss the bus.
She will () the bus.
 - Can you tell me his birthday?
Can you tell me () he was born?
 - When did you get a letter from Keiko?
When did you hear () Keiko?
- III. () 内の語を各日本語の意味をあらわすように並べ替えなさい。
解答欄には、並べ替えた語の2番目と4番目にくくる語を順に記述しなさい。
- 彼は私より年上だ。
(is / older / he / me / than).
 - その問題はとても難しくで私には解けなかった。
The problem was (difficult / too / for / solve / to / me).
 - 彼女はハワイに行ったことがある。
(Hawaii / has / she / to / been).
 - 彼は野球よりゴルフが好きだ。
(prefers / golf / he / to / baseball).
 - その研究所は1800年に建てられた。
(research / established / institute / the / was) in 1800.
- IV. 次の (1) ~ (5) の英文が表す英単語を解答欄に記述しなさい。
ただし、英単語は【】内の与えられた文字から書き始めること。
- A trip made by air, especially in a plane. [f]
 - The things that you wear, such as pants, dresses, and jackets [c]
 - A long journey, especially by ocean or in space. [v]
 - An illness affecting humans, animals, or plants, often caused by infection. [d]
 - The act of listening to, looking at, or thinking about something or someone carefully. [a]

Q&A

平成29年度
入試問題

大学
公募制推薦入試
小論文

大学
公募制推薦入試
教養 (国語)

大学
公募制推薦入試
教養 (英語)

大学
自己推薦入試
小論文

大学
一般入試
(国語)

大学
一般入試
(英語)

大学
一般入試
(数学)

短大
公募制推薦入試
小論文

短大
公募制推薦入試
教養 (国語)

短大
一般入試
(国語)

記入上の注意

記入例